

【国語・中2・「情報と関連付けて、説得力のある投稿文を書こう」】①

育成を目指す資質・能力

- 【知識及び技能】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア
- 【思、判、表等】読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。B(1)エ
- 【学びに向かう力等】言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

文書作成ソフトを使って投稿文を書くことで、アドバイスし合ったり、推敲したりして、説得力のある文章作成に役立てる。
書く過程を記録することで、構成や推敲の意図を残し、指導と評価に役立てる。

本時の見通しをもつ。

意見と根拠の関係を見直して、
よりよい投稿文になるように推敲しよう

①【個で考える】下書きに、意見、理由、根拠を色分けし、自分の文章の構成や表現の仕方について見直す。

②【友達との交流で新たな気付きをもつ】グループで下書きを読み合い、コメント機能を使って、アドバイスし合う。

③アドバイスし合ったことなどをもとに改善点を整理する。

事例の概要

前時までに、

「意見と根拠の関係」、「表現の仕方」について、既習事項や実際の投稿文から理解し、各自が決めたテーマについて、意見と理由、体験やデータに基づく根拠を整理し、下書きを書いている。

- ① 投稿文の下書きに、「意見」「理由」「根拠」の関係が分かるように色分けをし、自分の文章を客観的に読めるようにする。
- ② グループで下書きを読み合い、コメント機能を使ってアドバイスし合う。前時までに整理した「意見と根拠の関係」や「表現の仕方」を推敲の観点として、アドバイスし合う。
- ③ アドバイスや見直しから、気付いたこと（よい点や改善点）を整理し、どう改善していくか記入する。

【国語・中2・「情報と関連付けて、説得力のある投稿文を書こう」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

グループ A	グループ B	グループ C
①さん	②さん	③さん
⑥さん	⑦さん	⑧さん
⑪さん	⑫さん	⑬さん
⑯さん	⑰さん	⑱さん

表計算ソフトと各自の文書作成ソフトをリンクさせ、お互いの文書を見られるように設定しておく。

【事例におけるICT活用の場面②】



推敲の観点

説得力のある文章とは



○自分の考えがわかりやすく伝えられているか。

「情報と関連付けて、説得力のある投稿文を書こう」名前

①	主張	マイボトルを使おう
②	理由	マイボトルを使えば、環境にやさしい
③	根拠	ペットボトルの製造数年間230億本 ペットボトルのリサイクル率89% プラスチックごみ問題

私のお気に入りのマイボトルは、お姉ちゃんが買ってくれた白いマイボトルです。学校や部活の友達もみんな自分のマイボトルを使っています。みなさんもお気に入りのマイボトルを使ってみませんか。マイボトルを使えば、ペットボトルのごみ数を減らすことができるのではないかと思います。

今、日本では年間230億本のペットボトルを生産しています。そのうち約89%が回収されていますが、残りの11%はポリ捨てされ、一部が海へ流出しているというのです。リサイクルの技術も進み、リサイクル製品を目にするのも増えましたが、値段が高くなることもあり、思うような生産効率には至っていないそうです。きちんとリサイクルをすることはもちろんですが、生産数自体を減らすことができないでしょうか。そのために、マイボトルを使いませんか。

寒くなり、マイボトルの中身は温かいお茶になりました。毎朝母が入れてくれます。外部の私は冷え切った体を母が入れてくれたお茶で温めます。母が買って、母が入れてくれるマ

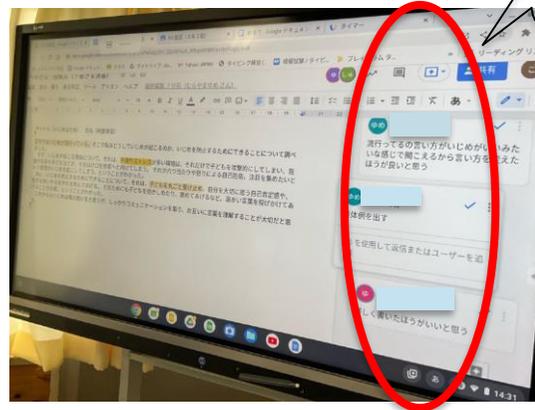
【生徒①の下書き】

- 表計算ソフトのリンクからワークシートを開き、下書きを書く。文書作成ソフトを使うことで、書き直しや推敲がしやすくなる。
- 自分で「主張」「理由」「根拠」となるところを色分けすることで、主張に対して理由や根拠が適切か読み直すことができる。

【友達のコメント】
適切なアドバイスは全体に紹介、参考にできるようにする。

【活用したソフトや機能】

- 文書作成ソフト
- コメント機能
- 表計算ソフトのリンク



- 表計算ソフトにリンクを貼っているのので、グループ全員で一緒に生徒①の下書きを読むことができる。直接質問し合いながらコメント機能を使ってアドバイスし合う。前時までに整理した「意見と根拠の関係」「表現の仕方」を推敲の観点として、グループ内で下書きを読み合う。
- 友達の投稿文を参考に自分の文章を見直すこともできる。
- 友達のアドバイスや自分の見直しから、改善点を整理する。友達のアドバイスはそのまま受け入れるのではなく、その妥当性を自分で判断し、推敲する意図も記録する。
- 個々の生徒の推敲の意図や試行錯誤の様子が蓄積されるので、教師は指導と評価に生かすことができる。